



NPO法人こどもとむしの会

平成26年度（2014年度）事業報告書

A 子どもと虫に関連する普及啓発事業

A-1 いどうこんちゅうかん

「いどうこんちゅうかん」とは、子どもたちのもとへ「ほんものたいけん」を届けるマジックボックス。昆虫館や博物館に出かけるチャンスのない子どもたちのもとにも、「ほんものたいけん」を届けます。

平成26年度は16ヶ所で開催しました。神戸市児童館派遣事業は23年度から4年目です。（吉岡）

平成26年度（2014年度）いどうこんちゅうかんの内容

日時	会場	来場者数	スタッフ氏名	備考
5月6日	神戸大学瀧川記念学術交流会館 (神戸市灘区)	約100人	中瀬・森野・前田慈・中谷・菅澤・多田・井上・坂本・吉岡	第2回「ムシのお話5つ星レストラン」で、生き虫展示とカヤを担当。大学構内でカヤ虫を採集しながらの開催。他にも、丹波の森公苑のオオムラサキなどたくさんの生き虫が集まる。
8月9日	しあわせの村 (温泉健康センター玄関ホール) (北区)	約100人	近藤・齋藤・中瀬・船元・中谷・吉岡	「昨年同様「温泉健康センター」内での開催。台風の影響が発令されていたので来場者は少なかったが、ファミリーでたっぷりしっかりと楽しんでいただく。
8月16日	神戸市立地域人材センター(旧ふたば小学校) (長田区)	子ども29人・大人29人	大谷・船元・小林・阪上・吉岡	「夏休み子供向けプログラム」のひとつを担当。3年目。地域の小学生親子・幼稚園児が申し込み制で参加。参加費300円をセンター側が徴収。
8月25日 (午前)	西脇こどもひろば(垂水区)	小学生29人・幼児5人・大人17人	内藤・船元・徳平・菅澤・井上・吉岡	昨年は児童館派遣事業で当選しての開催だったが、館長から「ぜひ今年も」と直接の依頼をいただき、連続開催。 SPメニューのいい会となる。
8月25日 (午後)	神戸市立桃山台児童館(垂水区)	小学生70人・幼児6人・大人15人	内藤・船元・徳平・菅澤・井上・吉岡	直接依頼による5年目の開催。 恒例の内藤先生のお話付きスペシャルメニュー。
8月26日 (午前)	神戸市立君影コーナー(北区)	小学生48人・大人8人	大谷・河村・小林・船元・阪上・菅澤・吉岡	26日～28日は神戸市児童館派遣事業。抽選で当たった6館に行く。自然いっぱい小学校内だが、虫をさわれない子もいる。「これをきっかけにもっと虫としたいなろう」とコーナー長。南五葉児童館からも子どもたちが参加。 近隣の児童館も同時参加するケースも増えてきた。

日時	会場	来場者数	スタッフ氏名	備考
8月26日 (午後)	神戸市立谷上コ ーナー (北区)	小学生30人・大人 6人	大谷・河村・ 小林・船元・ 阪上・菅澤・ 吉岡	児童館派遣事業。学生スタッフの「むしむし小話」も定着。みんな、なかなか話上手で子どもたちの人気のコーナーとなる。
8月27日 (午前)	神戸市立名谷コ ーナー (垂水区)	小学生35人・大人 4人	近藤・小林・ 船元・徳平・ 吉岡	近藤さんのアイデアで、タペストリーを使った昆虫紹介を始める。雰囲気を作るアイテムとしての認識しなかったことを反省。大きいので子どもたちの食いつきもいい。
8月27日 (午後)	神戸市駒栄児童 館(長田区)	小学生40人・幼児 63人・大人25人	近藤・小林・ 船元・徳平・ 吉岡	本番が始まる前に「幼稚園児が50名入りま〜す！」と一斉に虫に押し寄せる。20分ほどで帰って行ったが大喜びだったらしい。そのあと児童館の小学生。落ち着いた雰囲気での「いどう」となる。
8月28日 (午前)	神戸市立横尾児 童館 (須磨区)	小学生31人・幼児7 人・大人22人	八木・船元・ 阪上・徳平・ 福田・菅澤・ 吉岡	館長が学生時代に昆虫学の講義を受けていたこともあって、すごい期待の中での「いどう」開催。満足していただけてほっとする。清水さんの3D写真も好評。
8月28日 (午後)	神戸市立夢野児 童館 (兵庫区)	小学生36人・幼児4 人・大人4人	八木・船元・ 阪上・徳平・ 福田・菅澤・ 吉岡	高倍率の中で2年連続の派遣事業当選。今年の派遣事業では6館363人(うち小学生220人・幼児74人)に「いどう」を楽しんでもらう。6館とも、今年も大好評の感触!
9月20日	ムシテックワー ルド(ふくしま 森の科学体験セ ンター)(福島 県須賀川市)	約80人	小林・阪上・ 徳平・吉岡	こども☆ひかり福島キャラバン2014ミニ・フェスティバルに参加。福島県須賀川市。立地が悪い(どこからも遠い)ので人は少なかったが、じっくり楽しんで帰られた。
9月21日	「田村っ子ゆめ まつり」(福島 県田村市船引公 民館)	イベント参加者 1500人	小林・阪上・ 徳平・吉岡	こども☆ひかり福島キャラバン2014に参加。震災後3年ぶりにひらかれる福島の地元のイベント。主催者側も熱い。放射線の影響のあった地域ということで緊張して参加したが、幼児を連れてたくさんのファミリーが楽しんでくれた。
10月11日	ひょうご環境体 験館(佐用町)	子ども48人・大人 30人	八木・中瀬・ 船元・菅澤・ 吉岡	館内の「エコハウス」にて昨年に引き続き2年目の実施。虫好きの子どもたちや家族が申し込み形式で集まる。
11月9日	国立淡路青少年 交流の家(南あ わじ市)	約200人(来場者 1500人)	近藤・齋藤・ 小林・阪上・ 徳平・福田・ 吉岡	淡路うずしおフェスティバル2014に参加。前日は淡路の灘海岸・沼島で採集。雨の中での開催だったが、たくさん子どもたちやその家族が虫とのふれあいを楽しむ。
11月10日	神戸市立桃山台 児童館(垂水 区)	小学1~3年生25人	近藤・前田 慧・前田慈・ 吉岡	近藤さんの「むしのおえかき」の「いどう」版。2年目。「大人は横から何も言わず、子どもにのびのび自由に描かす」。子どもたちの集中した観察により、アートとしてもすばらしい作品ができあがる。



いどうこんちゅうかんのスナップ

A-2 むしむしたいけん

兵庫県立人と自然の博物館主催のオープンセミナー「むしむしたいけん」を、共催した。

2014年8月9日～16日

(吉岡)

B 地域の自然環境とまちづくりに関連する調査研究事業

B-1 神戸市北区のチョウ類調査

新名神高速道路計画路線が神戸市北区道場町を通過するにあたり、工事施工前・工事中・工事完了後にかけてギフチョウの生息状況及びチョウ類相の調査を行い、同工事による環境の改変が及ぼす影響を評価するとともに、必要であれば保全対策等についての提案を行う。調査は平成22年4月から開始され、平成26年度は4年目となる。

(吉田・近藤)

調査月日	調査内容	調査方法	スタッフ数
4月8日	ギフチョウ	任意採集法	17人
4月10日	成虫確認調査	マーキング法	
4月15日			
5月14日	ギフチョウ	現地踏査法	16人
5月16日	卵・幼虫確認調査		
5月19日			
4月23日	チョウ類群集の	ルートセンサス法	22人
5月28日	モニタリング調査	定点観察法	
6月13日			
7月22日			
9月16日			



B-2 「きべりはむし」の編集発行

2014年度に発行した『きべりはむし』の概要

きべりはむし 第37巻 第1号

- ・2014年12月25日発行
- ・頁数44、報文11、短報4

きべりはむし 第37巻 第2号

- ・2015年3月25日発行
- ・頁数73、報文10、短報10

(中峰)

B-3 ミニ図鑑『ひょうごのかまきり』編集発行

- ・2015年4月25日 第1刷 1500部印刷・発行
 - ・兵庫県内に分布するカマキリ目8種を網羅
 - ・カマキリ目の形態、生態、飼育方法などを解説
 - ・正会員には無償配布（頒布価格300円）
- （中峰）

B-4 みんなで調べよう（初蝶リレー・セミの初鳴き）

（1）初蝶リレー

『初蝶リレー2015』（2014年度事業であるが、実際に初蝶が見られるのは2015年のため、この名称を用いる）は、2015年2月4日の立春に開始し、4月5日の佐用町昆虫館『虫開き』までの2か月間にわたって実施した。

2013・14年度と同様、会員から蝶、蛾、時にはその他の虫の目撃情報をいただき、これを毎週『初蝶ニュース』にまとめて配信するという方法で実施した。2か月間に会員から寄せられた初蝶情報は、Eメール50通に達し、この間にNo.1～No.10の『初蝶ニュース』を配信することができた。

会員から寄せられた、蝶、蛾の出現情報については、2015年度に刊行される『きべりはむし』誌上に報告する予定であるが、2015年の初蝶は、モンシロチョウを例にとると、初見日は2014年に比べて遅れたものの、その後、安定的に目撃数が増加した点が異なる。これは、冬の前半に寒い日が続いたのに対し、後半には2014年よりも温暖な日が多かったことが要因であろう。

こうした多人数による昆虫の出現日の調査は、長期間継続することで、地域の環境や生物の特徴を浮き彫りにする事が出来る。今後も、会員諸氏のご協力を得て、調査を続けるとともに、春が待ち遠しい時期の楽しみとして、大いに盛り上げてゆきたい。

（久保）

（2）セミの初鳴き

兵庫県には13種のセミが分布し、鳴き始め、鳴きおさめの日は種ごとに異なる。初めて鳴き声をきいた日、場所等に関する情報を、こどもとむしの会会員等から募り、それを会員間で共有しようとする試みである。毎年実施することで、これまで明らかではなかった種ごとの分布の変化や鳴き始め、鳴きおさめ時期の変動について長期的な情報も得ることができる。今回が2回目であるが、情報量が前回と比較すると4倍に増え、より詳しい情報を得ることができた。

実施方法：会員個々が、鳴き声をきいたセミの種類、日時、場所をEメールによって担当者(近藤)宛てに連絡する。担当者は寄せられた情報をとりまとめて、月に3回程度「セミニュース」としてメール配信する。

成果：期間中に会員を中心とした73人から、11種のセミに関して400件以上の情報が寄せられたほか、セミ以外の鳴く虫に関する情報も多数寄せられた。

その成果はきべりはむし37(2)に掲載した。

（近藤）

C 昆虫館等の運営支援事業

C-1 佐用町昆虫館の管理運営

廃館となった兵庫県昆虫館に代わり、2009年に新たに歩み出した佐用町昆虫館は、無事5周年を終え、2014年度は「新たな飛躍の年」と位置づけた。

入館記帳者数でみる限り、前年度の3934人より212人(△5.4%)減の3722人と伸び悩んだ。5、10月は増えたものの、他は減り、2年続きの入館者減となった。ただ、平日の臨時開館を除く開館日が2013年度の71日から、2014年度は67日と4日(△5.6%)減っているため、実質的には横ばいである。また、入館者が50人を超えて混雑していると、来館しても記帳しない場合があり、入館者総数はさらに1割程度多いと思われる。

管理面では、昆虫館担当理事や、昆虫館と子ども達との触れ合いを心から愛するスタッフを中心に、3月から開館準備を始め、館の維持管理や園庭の増設、植物の栽培、池、水路などの整備を進め、生物多様性が実現するよう配慮した。

開館後は、別記の「子ども昆虫道場」をはじめ、「むしのお絵かき教室」「昆虫切り絵」「昆虫紙芝居」「昆虫面白クイズ」を行った。開館期間中の一日館長らスタッフの総数は、2013年度が249人、1日平均3.5人だったが、2014年度は313人と最多で、一日平均も4.4人と過去最高を記録した。NPO結成当初からのメンバーに加え、佐用町昆虫館の活動に実際に触れて、新たに加入したメンバーが活躍している。当初、60歳で加入したメンバーも、今は66歳、高齢化が進む中、少しずつだが世代交代も図られている。

子ども達が、さまざまなスキルを持った個性的な一日館長のリードの下、昆虫を通して自然の素晴らしさ、命の不思議に触れている。リピーターが多く、滞在時間が長いことでも、佐用町昆虫館の活動が、子ども達の知力、体力、情緒面の成長にとって有意義なものであることを示している。子どもたちや家族にとっても、自分たちの興味に合うスタッフとの出会いがあり、HPで一日館長を確認して来館することが日常的になっている。

スタッフにとっても、佐用町昆虫館の自然は素晴らしく、昆虫類の調査も進んでいる。そして、子ども達との触れ合いは大きな生甲斐となり、10月末の「むし納め」の日には、「しばらく昆虫館とお別れか」と、涙ぐむ場面も見られた。館外活動では、7月に佐用町の依頼で「ひまわり祭り」に参加、2000人もの親子連れに「ふるさとの昆虫と身近な生き物」に触れてもらった。明石市内では9月に幼稚園で出前昆虫教室を開いた。

(三木)

佐用町昆虫館の利用者数等

月	開館利用			閉館時利用			講座等			計		総計
	開館日数	記帳者数	スタッフ	日数	人数	スタッフ	件数	人数	スタッフ	一般	スタッフ	
4	9	186	45							186	45	231
5	11	565	35					32	10	597	45	642
6	9	428	32	1	15	1		29	8	472	41	513
7	8	757	35	1	27	1		22	8	806	44	850
8	12	1014	50	1	42	2				1056	52	1108
9	10	354	25					25	8	379	33	412

月	開館利用			閉館時利用			講座等			計		総計
	開館日数	記帳者数	スタッフ	日数	人数	スタッフ	件数	人数	スタッフ	一般	スタッフ	
10	8	173	43	1	24	1		29	9	226	53	279
計	67	3477	265	4	108	5	0	137	43	3722	313	4035

C-2 第5期佐用町昆虫館こども昆虫道場

こども昆虫道場は「ほんものたいけん」をスローガンに昆虫の採集と観察をする講座です。

平成25年度で第4期目になります。5月から10月の月1回（8月はお休み）、5回セットの講座を開催しました。参加費は¥1500です。参加者の反応は良好でした。

（金子）

実施日時	場所	参加者数	スタッフ数
5月11日	佐用町昆虫館	34人	7人
6月8日	佐用町昆虫館	29人	6人
7月13日	佐用町昆虫館	29人	7人
9月14日	佐用町昆虫館	25人	7人
10月12日	佐用町昆虫館	30人	6人

スタッフ数は講師含む



D 管理運営

D-1 むしのお話五つ星レストラン

2014年5月、会員の研修に資するため、「ムシのお話 5つ星レストラン」と題した講演会と昆虫たいけんプログラムを、神戸大学瀧川記念学术交流会館において開催した。



D-2 管理運営

- ・正会員41名、賛助会員1団体、家族会員2名（450,00円）
- ・寄付金9件（118,000円）
- ・理事会、総会、役員会を開催した。